5立 () 5かわ (通巻 146-(通巻 146-() 自然博物館だより

6-7月号

あたりまえの風景に あたりまえの生き物に あたらしいときめきがある!

いきもの 写真館



うことがむずかしいかもしれまは黄昏時に活動することが多く梅雨はトンボの季節。ヤンマのマルタンヤンマ ませ くのな な ん出か 会ま

撮影: 土居幸雄さん

- P 1 **※**いきもの写真館 マルタンヤンマ
- P2 同じ場所を何度か訪れる
 - 堀之内貝塚 小塚山公園 5月10日
- P4 ◎花屋の花を観察する カーネーション

- P 5 禁街かど自然探訪 下新宿・江戸川水門の全貌
 - 八幡のニセアカシア
- P6 禁むかしの写真で見る 昭和の風景 奉免町 大六天の林
- ♠わたしの観察ノート P 7 3月~4月ごろの記録
- P8 禁行事案内



同じ場所を何度か訪れる

堀之内貝塚•小塚山公園

5月10日

【木々が光をコントロールする】

5月に訪れた堀之内貝塚は、前回(3月28日)とは様子が大きく変わっていました。前回は落葉樹の芽吹き前だったので林内にも光がふんだんに差し込み、林は中も外も明るい状態でした。今回は落葉樹の葉が芽吹き、「新緑」の段階を過ぎて「青葉」の段階になっていたため、林内はずいぶん暗くなっていました。「青葉」の段階になると、木々の葉はしっかりして新緑のころのように光を透さくなります。写真に写すと林内は薄暗く、林外は明るく真っ白に写りました。それほど、林内と林外で明るさ(光の量)

林が暗くなる言、林っなと言えが、とこれではなる言葉ない。 とはばですりますがになりますがになりません。 なりますでものではないますではない。 なりますではないではない。 はいになり生物になり生物になり生物になり生物にないます。 になり生物になり生物にといる。

はストレスになります (わたしたち人間もそ う感じます)。それが

に差があるわけです。

木々の葉が芽吹いて

木々の葉にさえぎられることで、林内の 明るさはほどほどに抑えられ、気温の上 昇も乾燥も防がれます。

カンカン照りの場所では暮らすことができない生物は、穏やかな林内に生活の場を得ています。林内で暮らす動植物には、チラチラした木漏れ日の光で十分です。落葉樹が芽吹き、茂り、葉を落とす。そのことが、林の光をコントロールし林外とは異なる環境を作り出しています。こういう仕組みは「生態系」という言葉で表現されます。「食う食われる」だけが「生態系」ではないのです。



林の中から外を見た



木の上部は明るく根元は暗い

【ギャップと呼ばれる場所】

堀之内貝塚の中央部に、林にぽっかり穴が開いた場所があります。ここにはニセアカシアが何本も生えていましたが、それらが風で倒れたのを伐採してできた空間です。こういう場所を「ギャップ」と呼びます。

ギャップには陽光をさえぎる枝葉がないので、太陽の光がそのまま地面に届きます。林の外の環境と同じです。そのため、そこに暮らす生き物も林内とは異なります。堀之内貝塚ではハルジオンが群生していました。ハルジオンは開けた草原を好む

【光はすこしずつ減っていく】

堀之内貝塚や小塚山公園に多いイヌシデ、コナラ、クヌギ、ムクノキなどの落葉樹は、枝葉の茂り方に隙間があります。スダジイやシラカシなどの常緑樹が木の上部の枝に葉を密生させて「傘」のようになるのに対し、幹の途中からのびた枝にも葉をつけ、葉っぱが層のようになっています。

この隙間のある枝ぶりのおかげで、落葉 樹の林では林内にも光が届きます。スダジ イやシラカシの多い林は林内が真っ暗な 印象ですが、落葉樹の林では少しずつ光が 減っていくので、林内は常緑樹の林にくら べると明るい印象です。常緑樹の林が分厚 いシートで覆われているのに対し、落葉樹 の林では薄いシートを何層にも重ねて光 を減らしているイメージです。この仕組み のおかげで林内のいろいろな高さの場所 に、生き物が暮らす空間が作り出されてい ます。

野草です。

木はいつか枯れるので、ギャップは 林の生態系の一部とも言えます。です が小さな林では、そこから林が崩壊し ていく可能性もあります。



ギャップに群生するハルジオン

花屋の花を観察する

カーネーション



カーネーションは、いわゆる撫子(カワラナデシコなど)と同じグループ(ナデシコ科ナデシコ属)に属する植物です。品種改良によって花びらが増え、撫子とは異なる豪華な花になりました(写真①)。

今回は、カーネーションの花を分解してみました。萼(が<)が互いに合わさってひとつの筒になっているので(写真②)、その筒の一部を縦に切り取ると花を順番に分解することができます。萼を切り取ると、そこから花びらがつぎつぎにこぼれてきました(写真③)。

カーネーションの花びらの根元は細く、萼の筒の中に整然と収まっていました。数えると、40枚ありました。花びらを取り除くと、筒形の萼の中に雄しべ・雌しべが残りました(写真④)。萼の筒はしっかりしていて、くしゃっとつぶれることはありませんでした。

萼を取り除くと、雄しべ・雌しべの形がよく分かります(写真⑤)。雌しべは白くて長く、目立ちます。雄しべは、雌しべの根元(子房)のまわりに見られました。











カーネーションの花を分解した

①: 花の全体

②: 花の側面

③: 萼の筒を縦に切った

④: 萼の筒

⑤: 雌しべ・雄しべ

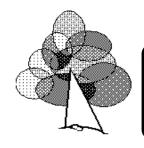


下新宿・江戸川水門の全貌

「江戸川水門」は現在機能している水門としては江戸川唯一のもので、河原地区に位置しています。ですが、その全貌は少し離れた下新宿からのほうがよく分かります。下新宿の江戸川(旧江戸川)沿いから見ると、右の写真のような角度で見ることができます。訪れたのがちょうど大潮の日だったので、水門はすべて閉まっているように見えました。この水門は、海水の遡上を防ぐことと、上流側の水位を調整する機能があります。水門が閉まると、ダムのような状態になります。



右側の5門あるのが江戸川水門。左側の大きなゲートは船を通すための「閘門(こうもん)」



くすのきのあるバス通りから No.88

八幡のニセアカシア

5月6日に葛飾八幡の境内を歩いていると、白いものがたくさん落ちていました。よく見るとフジの花のようです。あたりを見回すと中央公民館の横の植え込みに大きなニセアカシアがありました。花の時期に出会わなかったので、気付かずにいたようです。根元は外周 130cmでした。結構太いのではないでしょうか。コンクリートで囲まれ、他の木と寄せ植え状態になっています。河川敷では倒れ

やすいうえに、本来の植生に侵入する外 来種ということで伐採されているようで す。蜜源にしている養蜂家は伐採は困る と、問題になった事がありました。今年 は色々な木の花の数が多い様に思います。 花芽が出来る頃にいい条件が揃ったので しょうか。でも咲く順番が例年と違うも のもあります。今はエゴノキとセンダン、 スダジイ、クスノキが咲いています。

(M. M.)

むかしの写真でみる

昭和の風景

昭和47(1972)年 撮影

奉免町大六天の森



写真提供 岩瀬 徹 氏

見事な樹林のひとつです。 増えましたが、大六天の森は健在です。 写っています。 木々の葉がうっそうと茂る、 向こう側に位置する大野町の斜面林も 田んぼが広がっていた)と、その谷の 所で、そこから画面左側へ、斜面に沿 たものです。 木があり、歴史を感じさせてくれます。 段を上ります。 る台地の縁にあります。入口は斜面の って森が下がっている様子がわかりま 写真は、大六天の森を横から撮影し 本殿は上に位置するので、長い階 画面左奥には大柏谷(この当時は 大柏川が流れる「大柏谷」に面す 大六天神明社(第六天とも書く)」 画面中央が本殿のある場 入口にはスダジイの巨 いまでは周囲に住宅が 市内でも



◆長田谷津より -

・今年はフジのつぼみが、過去、経験がないほどたくさんついています。開花が楽しみです(4/7)。

金子謙一(自然博物館)

◆大柏川周辺より ——

・宿ノ下橋の上空をツバメが4羽飛んでいました(3/23)。昨年より、数日早く確認しました。

K. H. さん

◆真間山周辺より ——

- ・弘法寺境内のシナミザクラ(サクランボ)の花がこのところの暖かさでほころび始めていました(3/7)。厳しい寒さが続いていたので例年よりはおそいようです。
- ・斜面林下で体長10cm弱くらいのアズマ ヒキガエルを見ました(3/20)。このと ころの暖かさに誘われたのでしょうか。
- ・真間山幼稚園うしろの大コブシが去年 の分もと言うかのようにたくさんの花 を見せてくれています(3/21)。しかし、 広がった枝にはたくさん咲いているも のの高く伸びた木のてっぺんには残念 ながら花がつきませんでした。枯れて しまったのでしょうか。心配です。
- ・斜面林でウグイスが鳴き始めました (3/24)。まだちょっとぎこちない感じ ですが、とてもいい声で鳴きます。

◆里見公園より ―――

・カワヅザクラが咲き始めていました (3/9)。梅に続いていよいよ桜の季節 が始まります。

以上 M.T. さん

◆堀之内貝塚公園より —

アマナが満開でした(3/19)。

◆市内某所より ———

- いつもの場所にシュンランが蕾をつけていました(3/6)。
- ・木漏れ日の雑木林にキンランが60数株、 点在して咲いていました。別の場所で はギンラン3株とササバギンラン2株 が咲いていました(5/1)。

以上 谷口浩之さん(北国分在住)

◆坂川旧河ロー帯より ———

- ・カワセミ 2 羽が前後に連なり、坂川旧河道の方へ猛スピードで姿を消しました(3/9)。その際、どちらかが切なさそうな声を出していました。カワセミにも、恋の季節が訪れたようです。
- ・雨が降りつづく中、30羽前後のツバメ が江戸川の岸近く、水面すれすれを飛 び回っていました(4/21)。小さな虫を とっているのでしょうが、これだけの 数のツバメを町中で見ることはありま せん。

◆江戸川より ——

・和洋女子大学の高いビルの屋根の上、 ハヤブサ1羽が夜間赤く光る照明灯の 1つの上にとまっていました(4/20)。

以上 根本貴久さん(菅野在住)

厳しい寒さから一転、3月後半から急に 暖かくなりました。梅やコブシなど春早 い花は遅く咲き、桜や藤などは早く咲き ました。色々な花が同時に咲いた印象で す。総じて花数も多く豪華な春でした。







おやこ自然観察会」お申し込みが必要です。

親子で楽しむ自然観察です。

自然博物館(市川市大町)周辺 • 場 所

午前中 1時間半~2時間 • 時 間

各回とも、先着20名、親子対象です。 定員

日にち 受付開始日

昆虫と水辺のいきもの 6月 9日 5月18日より リ 7月 14日圓 6月15日より

8月 11日 (1) 7月20日より

お申し込み方法

受付開始日以降に 往復はがきで参加者全員の 住所、氏名、年齡、電話番号、 返信面に返信の宛先を明記の上、 下記までお申し込みください。

〒272-0801 市川市大町 284 番地 自然博物館「〇月観察会」 係まで

長田谷津 散 策会 お申し込みの必要はありません(兩天中止)。

毎月1回、長田谷津(大町自然観察園)の四季折々の風景を楽しみます。

• 日 時 6月1日田、7月6日田、8月3日田、

午前10時~11時30分

• 集合場所 動物園券売所前 午前10時

季節を感じる 散 策 会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

集合場所など、詳しくは博物館に直接おたずねください。

場所 日時

初夏の干潟 6月23日 日午前10時~11時30分 江戸川放水路

甲見公園下江戸川土手 初秋の江戸川土手

長田谷津ボランティア

湿地の環境整備をお手伝いしてくださいませんか。

(爾天中止)

- 日 時 午前10時~12時
- 集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もあります。作業内容や身支度、駐車場 などについてご案内いたしますので、ご面倒でもまずは博物館 にお電話でお問い合わせください。

野草名札付けの お手 伝 いをしてくださいませんか。 (申し込み不要・雨天中止)

- 日 時 7月7日 8月4日 9月8日 1 午前10時~12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・自家用車をご利用の場合は、博物館まで お電話でお問い合わせください。

第25巻 第2号 (通巻第146号) 平成25年6月1日 発行 編集・発行/市立市川自然博物館 〒272-0801千葉県市川市大町284番地 **23**047 (339) 0477

http://www.city.ichikawa.chiba.jp/shisetsu/haku/